

東京 IPO 特別コラム

2021年8月23日 Vol.181

下値模索の展開の中で見出す反転期待

お盆明け後の株式相場は上値が重く、再び下値模索の展開が見られる。先週の日経平均は2万7000円台を割り込み、下げトレンドを続けてきたマザーズ指数も1000ポイントの大台を割れてきた。8月上旬に相次いで発表された四半期決算は概ね比較的堅調な企業業績を裏づけてくれたが、業績の先行きは新型コロナ変異種の感染急拡大とともになおも慎重な見通し。巣籠り需要の継続、オンライン化によるデジタル機器の需要増は関係企業の業績を押し上げているが、株価には相当に織り込まれたと見る投資家は慎重にならざるを得ない。

需給悪が続く中で直近 IPO 銘柄の株価下落も著しい。経験則から想定される下値目途となる高値からの下落率60%の水準に至る銘柄も散見されるが、なおも下値模索が続いている状況。今年は2月から先週20日までに既に64の銘柄が IPO を果たした。これまでの IPO 銘柄の大半が IPO 後の高値から直近の安値まで40%から70%もの値下がりを見せている。先週末の IPO 2銘柄も既に上場直後の高値から上場日に20%ほどの調整を見せており、需給悪の中とは言えやや異常な状態だ。

高値から50%以上、つまり半値以下までの調整を見せた銘柄は、筆者の調査では28銘柄にも及んでいる。その中でも2月25日公開のWebサービスシステム会社、アピリッツ(4174・JQ)は高値7680円から安値2000円まで74%もの調整を見せている。また2月26日公開のモバイルオンラインゲーム会社、coly(4175・M)も高値9890円から安値3090円まで69%調整。3月25日に公開した顧客対応ソフト会社、ジーネクスト(4179・M)も高値3145円から安値958円までおよそ70%の調整を見せた。このほか、ベビーカレンダー(7363・M)69%、メイホーHD(7369・M)68%、ワンダープラネット(4199・M)67%、アイ・パートナーズフィナンシャル(7345・M)66%と続いており、AIやDXに絡んだ有望銘柄でも容赦ない調整が見られる。

まさに値下がりの競演であり、下げている理由が企業価値の変動とは別の視点、つまり需給要因に起因している点を冷静に理解すると、調整が一巡すれば逆の現象が起きる要素もあるだろう。振り返ってみると6月の21銘柄にも及んだIPOラッシュ、結果として初値が公開価格に対して高過ぎたと言えるIPO銘柄への過剰評価の反動がここでの需給悪につながったとも言えそうだ。8月のIPOは24日のタンゴヤ(7126・JQ)、27日のジェイフロンティア(2934・M)が残っているが、この需給状況では活躍は期待薄。9月は今のところ24日のAI活用型医療ソリューションの研究開発企業レナサイエンス(4889・M)まで7銘柄が登場予定。全体相場の落ち着きとともに長きにわたって調整が続いてきた有望IPO銘柄への関心の高まりを大いに期待したい。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)